

「象徴」天皇制を考える

—「神聖」の遺産と大衆化の狭間で—

講演：吉馴明子氏（恵泉女学園大学名誉教授）

日本神話を元にした「現人神天皇」制とは断絶し、国民主権に基づいて新しく作られた、権能を持たぬ「象徴」天皇制が、なぜ「国家の基軸」としての天皇と同じように国民の関心を集め、国民に影響力を持つような風潮が醸成されてきたのか。私たちはこのような風潮とは無縁か、じっくり考えたいと思います。

12:00 受付
12:30~12:50 開会礼拝
13:00~14:30 公開講演、
14:30~15:55 質疑応答
15:55~16:00 連絡、閉会



講師プロフィール

1943年、神戸市に生まれる。日本キリスト改革派東京恩寵教会会員。父が戦死、母は日本基督教会大垣教会創立メンバーの祖父母、父母から、キリスト教信仰を受け継いだクリスチャン。国際基督教大学卒業後、東京大学大学院で日本政治思想史を学び、戦争、天皇制、キリスト教をテーマに、現在は植村正久を軸に、研究を続けてきた。1988年~2009年3月恵泉女学園大学教授。

主要業績『海老名弾正の政治思想』東京大学出版会、1982年。『植民地・デモクラシー・再臨運動』（共著）教文館 2014年。『現人神から大衆天皇制へ』（編著）刀水書房。



■ 2018年7月16日(月曜・海の日) 12:30~16:00

■ 日本キリスト教会札幌琴似教会にて

[JR 琴似駅徒歩4分。札幌市西区八軒2条西1丁目3-1 TEL011-641-3088]

■ 参加・入場無料 一般市民の方々のご来会を歓迎します。P有

主催 日本キリスト教会北海道中会 ヤスクニ・社会問題委員会

問い合わせ 011-811-6838 札幌豊平教会(いのう)